

発刊の辞

学長 中西 智海

本年はわが相愛学園が創学されて100周年に当たる。1888年（明治21年）、浄土真宗本願寺派本願寺第21世、明如上人の発願によって創建され、以来、今日までつねに建学の精神の具現化をめざし、時代と社会を直視してその使命に精進し、発展してきたのである。特に短期大学は、大乘仏教の思惟の精華ともいべき親鸞聖人の精神に基き有為淑徳の女性の育成を一貫教育の結晶の場として実現し、幾多の人材を世に送ってきたのである。

大学の使命が「教育」と「研究」にあることは論をまたない。しかし、学生への「教育」は、まず教授陣の不断の研究が先行されるべきである。何故なら、自ら精励して学ぶ者のみが、学習することのよろこびを開導することができるからである。

ここに集録された論文の一編一編は、日頃の不断の研究の結実である。国文・英文・食物・被服・一般など、それぞれ専門は異なっているが、その底流に「真実を開顕する精神」つまり親鸞精神によって貫通されていることを確信してやまない。この教授陣の「研究」の成果が「当に相敬愛すべし」との人格形成の「教育」へ具現化するのには必然である。

ここに100周年記念号としての研究論集を世に送ることの慶びは誠に大きい。

この研究論集が本学の貴重な財産となるばかりではなく、21世紀の文化の進展に一役を荷負うことができれば、と願うものである。

1988年12月8日